

日 時：平成26年9月8日（月） 18時30分～20時15分

場 所：新屋町会館

対象町会：新屋町

参加者：19名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○尾上総合支所の花壇について (市民からの要望・質問) 冬は除雪や駐車が大変なので、尾上庁舎駐車場の真ん中にある花壇を撤去してほしい。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・当該花壇は、旧尾上町の個性を取り入れ、町の花であった「ハスの花」をイメージしたモニュメントであり、そのままとしておきたいと思います。・駐車場の不足については、現在、入口から入って左側の芝生部分を駐車場にしようと考えています。・空いている場所を駐車場にして、庁舎を利用する方にご不便をかけることのないようにします。
<p>○歩道の設置について (市民からの要望・質問) 新屋町から荒田へ向かう道路に歩道を作ってほしい。だいぶ前から要望している。</p> <p>(市の回答)</p> <ul style="list-style-type: none">・以前から町会要望として出ていた場所である。・この路線は、以前は県道であり、旧新屋町バス停までを県の歩道整備事業で整備し、その後市へ移管され、現在は市道として管理している路線である。・引き続き検討していかなければならないが、各地区から歩道整備の要望があり一度にはできないことから、すべての地区の要望も聞いたうえで比較検討して進めていきたい。
<p>○新屋町の市営墓地の管理について (市民からの要望・質問) 新屋町の市営墓地に浮浪者がおり、トイレや垣根の所に寝袋を持ってきて寝泊まりしているようである。お供え物のお酒やジュースなども持って行ったりしているようだ。これは垣根があることで見通しが悪く、人目に付かないことが原因と思われるので、垣根やトイレの撤去をお願いしたい。</p> <p>(市の回答)</p>

- ・生け垣は、旧尾上町が景観などを考えて作ったものと思われる。
- ・浮浪者については警察と相談していかなければならない。
- ・生け垣を撤去することについては担当課と相談しながら検討していくこととします。

○街灯の設置について

(市民からの要望・質問)

荒田方面へ向かう道路について歩道設置を要望する話が出たが、夜は暗いので街灯も付けてほしい。

(市の回答)

- ・4月に開催した行政委員連絡会議で、街灯の電気代が高いので何とかならないかという要望があり、総合的に考えた結果、市内約4000箇所全ての街灯をLED化することとし、今年度はその調査費として300万円を予算計上した。
- ・LED化のメリットは①明るくなること、②電球の寿命が長いこと、③電気料が安いことである。
- ・今のご要望の場所も、現場を見て、必要であれば設置を検討するが、設置する場所によっては電気料を町会が払うこととなる場合もある。
- ・当初の予定した額よりも安価な額で設置できる可能性も出てきたので、夜道でもできるだけ安心して歩けるような対応をしていきたい。
- ・詳しい場所は尾上総合支所へ伝えてほしい。

○事故の多い農道の交差点に標識をつけてほしい

(市民からの要望・質問)

新屋町の農村公園付近の農道の交差点で事故が多く、「止まれ」や「徐行」などの標識を設置してほしい。

(市の回答)

- ・現場を見てみる。警察との相談もあるので少し時間をいただきたい。

○コミュニティ育成奨励金について

(市民からの要望・質問)

冠婚葬祭による集会所の利用収入もほとんどなく、町会費で運営費を賄うことが難しくなっている。コミュニティ育成奨励金の使用について、対象外にも使えるようにしてほしい。

(市の回答)

- ・コミュニティ育成奨励金は継続させていただく。
- ・私自身もこれから高齢化社会を迎えるにあたり、コミュニティづくりは大切だと考えて

いる。行政と地域が力を合わせて進めていくことが必要である。

- ・地域のみなさんが活動するために助成金をお支払いしている。この助成金については、なくするのではなく、より役立てていただくためにこれからどのような形になればいいのかを考えていかなければならないと思っている。
- ・他県の例では小学校区程度を単位とした「地域自治組織」というものがあり、「集落の中のここを直したい」という要望に対してお金を払い、自分たちで対応している事例もあり、将来的にそういうことも見据えていく必要があると考えている。
- ・現時点ではこの助成金はそのまま継続して、みなさんに活用していただきたいと考えている。
- ・大きい町会は最大48万円という上限に当たってしまう団体もあり、改善を求める声も聞こえている。
- ・来年に向けて制度設計を検討している。いろいろな方からご意見を聞きながら進めていくが、大きく変えるつもりはない。

○農地を借りた他の地域の人々の環境保全について

(市民からの要望・質問)

他町村の人が新屋町の農地を借りた場合、農地の環境保全をやらないため草が伸び放題である。水路の泥上げもしない。集落の一斉清掃にも出てくれない。貸し借りの際に条件を付すことはできないものか。

(市の回答)

- ・そういった箇所が何箇所もあるのか。実情を聞いて農業委員会に伝える。
- ・借りている人が草刈りなどをして管理していくべきだと思うが、それをしない人もいるのだろう。

○防災無線について

(市民からの要望・質問)

防災無線のスピーカーが神社の脇にある。そこは以前に屯所があった場所であったためと思うが、屯所は現在別な場所にあり、現在のスピーカーの場所ではいざという時に役に立たない。また、放送が入っても音が小さく聞き取れないので、スピーカーを町会の中に移動してほしい。

また、平賀地域には防災無線を付けている。できれば尾上地域にもつけて統一した防災無線を市全域に設置してほしい。

(市の回答)

- ・防災無線については、平成25年度で平賀地域、平成26年度で尾上地域と碓ヶ関地域の更新を予定している。
- ・尾上地域の更新はこれからになるので、現在は以前からの防災無線を運用している状態

である。

- ・雪が降る前には新しい場所に柱とスピーカーの設置を終える予定であり、本庁から市内全域に放送が流れるシステムを考えている。
- ・町会長さんと話をしたので柱を建てる位置も決まっている（集会所と墓地近辺）。
- ・集会所の近くに柱を建てた場合には、町会の放送室に引き込んで放送できるようにしている。
- ・詳しくは説明会を開くのでよろしくお願いします。

○排雪について

（市民からの要望・質問）

除雪していくうちに雪がたまり道路が狭くなるので、たまには排雪してほしい。

（市の回答）

- ・現場を見て対応します。必要であればやるように土木課に伝えます。
- ・排雪の要望は非常に多い。ただ、全部やるとなると除雪費用が倍になる。
- ・通学路などで危険なところはやらなければならないが、我慢してもらう部分も出てくる。やらなければならないことはわかるが、ご理解願いたい。

○尾上体育館の屋根雪が道路に落ちる件について

（市民からの要望・質問）

尾上体育館のそばの道路は、尾上中学校の生徒の通学路であるが、冬に体育館の屋根雪が道路に落ちる。昨年も道路の真ん中に雪が落ちているのを見た。とても危険だと思う。「頭上注意」の看板はあるようだが、別な対応はとれないものか。

（市の回答）

- ・体育館前の道路は、昨年、落ちた屋根雪に車がぶつかった事故があった。道路の管理部門である土木課に、冬期間は通行止めにできないか協議したが、新屋町の中学生が通学路として使っていることもあり、通行止めにはせず「注意喚起しながら通行させる」ということにした。
- ・雪が落ちないか、状況を常に確認しながら昨年は乗り切ったところである。
- ・今年、その対策をどうするか検討し、雪止めも考えたが、屋根に融けた雪が浸透する恐れがあることや、屋根が雪の重さに耐えられるか等の課題もあり、雪止めは建物の劣化を早めると判断し、やめにした。
- ・安全を守っていく方法として、土木課との協議の中で通行止めを検討しているが、まだ結論は出ていない。通行止めが一番確実な方法である。
- ・あの道路を通らなければ絶対に学校に行けないわけではないので、学校とも協議しながら冬期間の通行止めの方法を考えていきたい。

○中学校付近の用水路について

(市民からの要望・質問)

尾上中学校の校門から玄関へ続く道路の下に流れている用水路が以前、桜の木を切った時に詰まってしまった。蓋などをつけて開けることができるようにしてもらえないか。また、8月末の雨で雨水が全てあの用水路に流れ込み、引座川までU字溝など入れてもらえないか。

(市の回答)

- ・用水路については、現場を見ながら学校と協議して進めていきたい。

○子供たちのスポーツに対する助成について

(市民からの要望・質問)

この頃、新聞に子供たちのスポーツでの活躍が出ているのを見かけ、うれしい限りである。市では遠征費に対して補助金を出すなどして、どんどん子供たちを伸ばしてほしい。

(市の回答)

- ・近年、スポーツで活躍する子供たちが増えている。小学校の女子のソフトボール、ソフトテニス、ボウリングで高校日本一になった選手もいる。県民体育大会も総合3位となり、人口の少ない当市としては、快挙である。
- ・運動する人が多くなることによって、健康で長生きできる人が多くなるよう、支援していきたい。それによって医療費や介護費用の抑制にもつながると思う。
- ・平均寿命が最下位の青森県にあってその中でも最下位レベルの平川市であるので、食生活と運動、心の健康の3つに力を入れていきたい。
- ・平川市は、小中学生の東北大会、全国大会への補助の率はこのあたりで一番よい。
- ・宿泊費、交通費を全額補助しているのは平川市だけである。
- ・交通手段については、全員が飛行機で行きたいと言われても高額になるので、安価な交通手段を選択してもらおう場合もある。

○窓口業務について

(市民からの要望・質問)

庁舎建て替えの記事を新聞で見た。総合窓口の設置について書かれていたが、ぜひ実現していただきたい。以前、手続に行った時、市役所の機能が分散しており不便であったので、手続が1箇所で済むように総合窓口の設置を望みます。また、関連性のある課同士で、申請書類のすり合わせをしていただければ、同じ書類を求められることもなくなるのではないかと思うのでお願いしたい。また、他の地域の懇談会の記録に、子育て支援課の設置により職員が不足しているようなことが書かれていたが、不足しているならば窓口を委託するなどの方法を取ることを検討してはどうかと思う。

(市の回答)

- ・総合窓口は、今すぐにでも実施したいが、今の市役所の形ではできづらいのが実情である。
- ・新聞でご承知のとおり庁舎の建て替えを決断したが、一番の原因は現在の庁舎が耐震基準を満たしていないことである。
- ・その対応方法としては、①災害時に対策本部となり得る「防災庁舎」を建てる ②新しい庁舎を建てる ③現庁舎を耐震補強する ということが考えられる。
- ・現在の庁舎を耐震補強するとなると18億円を要する試算である。新しい庁舎の建替える場合は22～3億円を要する試算となり、それであれば将来的なことも考えた上で建替えがいいと判断した。建替えに併せて総合窓口を作り、ワンストップでサービスが提供できるようにしたい。
- ・階段を上がっていく現在の庁舎も高齢化社会には対応できないので、フラットな庁舎を建てたいと考えている。
- ・庁舎内の機能に関しては、今後市民と話し合いながら決めていきたい。支所のあり方についての議論も必要である。尾上分庁舎は現在、経済部、建設部、教育委員会などが入っているが、このまま分庁舎方式がいいのか、1つの庁舎にまとめた方がいいのか、さまざまな考え方があると思うので話し合いながら解決していきたいと思っている。
- ・合併特例債を使える期間が5年延びて平成32年まで使えることとなった。合併特例債は、充当率95%、交付税算入率70%であり、有利な起債である。将来的な財政負担を考えると、これが活用できるうちに庁舎を建てたいという考えで進めさせていただいている。
- ・関連する課の連携については、うまく連携できていない部分もあるかもしれない。今後職員と話し合いながら進めていきたい。
- ・子育て支援課については4月1日から7人態勢で進めさせていただいている。この中で第2子からの保育料無料化の取組みも行っている。
- ・行財政改革で職員数が減っており、かなり厳しい状況にある。特に災害対応で残業や休日出勤の多い部署も多く、苦勞をかけている。
- ・市民のためのサービスであるので、子育て関係のことはすべて1ヶ所で済むようにと思いこのような体制とさせていただいたのでよろしくをお願いします。

○市のホームページについて

(市民からの要望・質問)

平川市のホームページは、他の市町村と比べても充実していると思う。特に最近できた「市内の話題」のコーナーは、市の情報が伝わってくるし、今後も魅力的なホームページとなるように期待しています。

(市の回答)

- ・ホームページについては、今後とも市民の皆様へ新しい情報を伝えていくように努めていきたいと思えます。

○集落内の道路の安全対策について

(市民からの要望・質問)

南田中新屋町2号線(カントリーから墓地へ続く道)であるが、神社から下りたところの見通し悪く、坂になっており危険である。最近はやすらぎ聖園に行く車がスピードを出すことも多い。標識を付けるなどして安全対策をお願いしたい。

(市の回答)

- ・担当課である土木課と相談することになります。現場を確認する際には町会長さんにも協力をお願いしたいと思います。

○子育て支援課の業務について

(市民からの要望・質問)

4月から子育て支援課ができたということであるが、他にも何か目玉となる取組みはあるか。また、子育て支援課の職員は現場に出たりしているものか。

(市の回答)

- ・平川市の出生率は1.28である。県は1.41であり、平川市は低いと言える。
- ・しかし、最近新しい住宅が建ってきて若い世代の人が平川市に住み始めている。
- ・保育園の質も教育の質も含め、平川市は子育てをしやすいという環境を整えたい。
- ・去年から始めたのは、子育て世帯の新築住宅への支援である。他県からの申し込みもあり、平川市に住む人が増えてきている。
- ・12月からは入学前までの子どもの医療費を無料にする施策を始めるところである。
- ・津軽地方では比較的雪も少なく、それほど災害も多くなく、平川市は住みやすい地域であり、今後人口が増えることを期待しながら様々な施策を進めさせていただいております。
- ・子育て支援課の職員は、その業務内容から現場には出ておりません。

○原発の最終処分場の誘致について

(市民からの要望・質問)

市に多くの助成金が入るのであれば、原発の最終処分場の候補地として検討してみてもどうか。

(市の回答)

- ・現在、原発を稼働しなくても間にあるのではないかと思うかもしれないが、実は古い火力発電所をフル稼働させている状態であり、現実にはそうでもない。
- ・国として、原子力、火力、太陽などのエネルギー政策をやっていくべきではないかと考えている。

- ・原子力発電を活用しても、使用済み燃料はたまっていくし、再処理施設を稼働させないと原子力発電はできなくなってしまう。
- ・原発の最終処分場はいずれ必要となるが、現在はフィンランドにあるだけである。
- ・日本でも岐阜県と北海道で試掘をしている所はあるが、あくまでもそこには埋めないという約束のもとに試掘している。
- ・最終処分場を青森県に持ってきてはどうかという意見であるが、これはできない。
- ・青森県はこれまで、内閣が変わるたびに、青森県を最終処分場にしないという確約書をとっている。
- ・いろいろな議論があるが、最終処分場に平川市は手を上げることはしない。青森県の方針は守りたいと考えている。

○深くて危険な側溝について

(市民からの要望・質問)

自分が経営している美容室の近くの側溝がとても深く、10年以上前から危険だと思っていた。以前に落ちて亡くなった方がいる。危険なのでなんとかしてほしい。以前町役場へ相談しても対応も悪く、何年も前から不満に思っていた。

(市の回答)

- ・側溝については現場を見て対応したい。
- ・職員の対応については、接遇向上マニュアルを作成して取り組んでいるところです。
- ・気持ちのいい、市民と市役所の関係を作りたいと思っている。たとえできないことであっても、市民に対しては丁寧に話していきたいと思っている。
- ・市民の皆様に不快な思いをさせないよう指導している。今後がんばっていく。